

第1号議案

第1期（2013年1月7日～2013年12月31日） 事業報告

【自主事業】

- (0) 横浜あおば発 地元のエコ発見メディア「森ノオト」の運営
- (1) NPO 設立・登記
- (2) NPO 設立記念パーティー
- (3) 森ノオトリポーター養成講座
- (4) ウェブサイトリニューアル
- (5) あおば ECO アカデミー【YES】
- (6) よみがえりのレシピ上映会【YES、横浜市地産地消推進事業】
- (7) 山伏講話会
- (8) あおばを食べる収穫祭【横浜市地産地消推進事業】
- (9) 次世代郊外まちづくり住民創発プロジェクト・シビックメディア
- (10) 次世代郊外まちづくり住民創発プロジェクト・たまプラーザエレキラボ

【委託事業】

- (1) 県民記者ボランティア養成講座
- (2) 次世代郊外まちづくり家庭の節電プロジェクト啓発事業
- (3) 3R 夢なクッキング講座
- (4) 次世代郊外まちづくり住民創発プロジェクトレポート委託

【理事長活動報告】

【メディア掲載実績】

【自主事業】

(1)横浜あおば発 地元のエコ発見メディア「森ノオト」の運営

日時：2013年通年

従事者数：21名



森ノオトの自主事業の核になるメディア発信。地元に住む子育て世代の主婦が、取材活動を通じて地域社会と接点を持ち、いつしか公益の担い手になるモデルとして注目を集めるようになった。森ノオトリポーターは現在21名（コラム執筆陣も含む）。初年度はリポーター養成講座を行い、法人の理念の理解、アポイントメントの取り方、取材の仕方、執筆の作法から、写真の撮り方、メディアリテラシーまでを体系的に学び、取材技術も格段に向上した。

「メディアは事業のプラットフォーム」を合い言葉に、取材を通じて地域の様々なヒト・モノ・コトと出会い、つなげる活動で、森ノオトの自主事業に多様な彩りをもたらした。森ノオトマルシェ「あおばを食べる収穫祭」がその典型的な例で、取材活動が地域の具体的なネットワークづくりにつながる成功例と言える。

メディア事業に参加しているリポーターは、取材活動を通じて地域に友達や行きつけのお店を増やし、自分のライフワークにつなげている実例も見受けられる。また、取材で著名人や有識者の経験・知見を地域に還元し、個人では得られないようなネットワークづくりにもつながっている。

初年度、多くの自主企画・自主事業にチャレンジしたが、すべてのベースになり、かつ原点なのが「森ノオト」の運営である。今後、法人が発展・縮小のいかなる方向性に動こうともこのメディア運営を基幹に、取材活動を通じて地域社会に仲間・ファンを増やしていく。

(文：北原まどか)

【自主事業】

(1) NPO 法人森ノオト 設立 登記

日時：2013年1月7日

従事者数：1名 支出総額：1,900円（収入印紙）



2013年1月7日、七草の日にNPO法人森ノオトを設立・登記した。遡ること1年前より、森ノオトに親しく関わるメンバー数名で「森ノオトをNPOにする意義とは?」「公益法人として社会にどんな価値を還元していくのか?」といったビジョンを描くワークショップを重ね、同時に横浜市市民局に通い定款の作成や修正、組織形態の検討などを行ってきた。設立当初年度の役員（北原ま、藤江、玉置、中島、北原健、野原）との会合も行い、初年度のNPO正会員10名が集まり、2012年9月の台風の日には藤が丘のナチュラルレ・ポーノで設立総会を行った。参加者に「森ノオト」を軸に広がる未来予想図をつくってもらい、全員で共有した。不思議と全員が共通するビジョンを描き、現在森ノオトの担い手として活躍している。その礎が法人設立より1年を経た今、着実に成果を上げているのを実感している。

設立以降、新たに総務、経理や税務などの事務作業が始まり、今年度は活動を事業として回すことで精一杯の状態だった。法人として地域社会の中での存在意義や役割を考えるうえでも、特に税務について知ることは大きな学びになった。今年度は緑区のYMG林会計事務所に納税についての基礎知識をアドバイスいただき、年度末の決算書類の作成等も依頼した。

今年度、NPO正会員は16名（個人・団体）、森のなかま会員（賛助会員）は14名だった。

（文：北原まどか）

■関連記事

2013年1月7日、森ノオトがNPO法人になりました！

<http://morinooto.jp/news/npo-project/130107morinootonpo/>

【自主事業】

(2)NPO 設立記念パーティー

日時：2013年2月20日 18:00～21:00

場所：ウィズの森

参加者数：大人101名、子ども20名（小学生6名、乳幼児14名）

収入：208,000円 支出：157,619円



NPO 法人森ノオトの設立を記念するパーティーを開催した。森ノオトに注目してくださる行政関係やメディア関係の方々に向けての発信や、「森のなかま会員」の募集、資金援助に向けたPRもねらい。

会場をこれまで森ノオトを育ててくださったウィズの森にすることで、地域の多くの方々に足を運んでいただき、ウィズの森の理念やホルピタリティを発信することで潜在的顧客の開拓にもつなげられると考えた。

当日は、予想を超える、大人101名、子ども20名（うち森ノオトリポーター・食事担当スタッフ・森ノオトNPO正会員・ウィズの森関係者は参加費無料。有料参加者は大人67名。子どもは就学児童6名）に参加いただいて、森ノオトのNPO法人設立を地域にPRし、これまで取材でお世話になった方、地域のエコパーソンが一堂に会する機会となった。また、横浜の環境行政担当者、NPO法人経営者など、いわゆる環境分野で活躍し政策提言や実行能力のある方々に「横浜北部」の人的資源・魅力をPRできたのが最大の成果であった。

改めて、NPOという公益団体が社会で果たすべき役割、そして支援して下さる企業へのインセンティブや、ビジョンを共有するという姿勢を明確に、他企業への協賛を願う時にもこの経験を生かそうという想いを新たにした。

（文：北原まどか・中島美穂）

■関連記事

森ノオトNPO法人記念パーティーのレポート。出航しました森ノオト号！

<http://morinooto.jp/news/npo-project/npomorinootoparty/>

【自主事業】

(3) 森ノオトリポーター養成講座

第1回：2013年1月29日（火）10:00～12:00

第2回：2013年3月8日（金）10:00～12:00

第3回：2013年3月26日（火）10:00～12:00

場所：藤が丘地区センター（第1回）、ウィズの森（第2回）、山内地区センター（第3回）

参加者数：第1回14名、第2回12名、第3回14名

収入：53,500円 支出：26,370円



「これまでリポーターに個別に伝えていた記事の書き方、編集の着眼点などを、一度体系立て整理して伝えたい」「今後、市民発信型のメディアはますます盛んになるだろうし、地域で眠る主婦の才能を生かし、まちづくりのプレイヤーとして育てていきたい」という思いから、森ノオトのリポーター養成講座を開催した。情報の「受け身」から「発信側」に回るために必要な、メディアリテラシーや著作権、エビデンスに基づいた取材法など、これまでの経験と蓄積を「森ノオトラしく」調理して伝えた。

森ノオトのNPO正会員メンバーはスタッフとして参加し、各回で「講師役」を務めた。キタハラは、全回を通してこれまでのライター経験と、森ノオトリポーター活動3年間の蓄積をふまえて、「森ノオトラしい」メディア論を体系立てて伝えた。

3回の講座を経て、新たに4名（松岡美和、三ツ橋樹里子、山田恵里佳、高鳥可那）のリポーターが生まれた。現リポーターも森ノオトの発信について、ちゃんと身についたことが感じられた。現在は森ノオトのリポーターへの参加要件を「講座受講メンバー」に限り、活動期間は講座受講後1年間とし、「森のリポーター活動同意書」をかわしている。

（文：北原まどか・中島美穂）

■関連記事

森ノオトリポーター養成講座 1回目が開催されました！

<http://morinooto.jp/news/npo-project/repoterlessonvol1/>

第2回森ノオトリポーター養成講座レポート！ウィズの森マルシェとウィズの森の魅力も…

<http://morinooto.jp/news/npo-project/reporterlesson/>

【自主事業】

(4) ウェブサイトリニューアル

日時：2013年1月～2013年4月

スタッフ人数：5名

支出総額：400,000円



2013年4月、森ノオトのウェブサイトが待望のリニューアルを果たした。2009年11月オープン of 初代サイトは親しみやすいデザインともりたろうのキャラクター、やわらかい色合いが女性の心をつかみ、読者増に大きく貢献した。しかし、3年を経てウェブメディアの主流は最新記事を時系列で見られるタイムライン化に変化したこと、記事を書いたリポーターからより多くの人に自分の記事を読んでもらいたいという要望を受け、回遊性の高いサイトへの全面リニューアルを決めた。それに伴い、CMSも Movable Type から Wordpress へ切り替えた。

リニューアルに際しては、株式会社シンコッチョーの鈴木嘉右氏の貢献が大きい。完成度の高いワイヤーフレームと的確な指示で、デザイナーの高山えりか氏が迷うことなく、のびのびと制作に励むことができた。リニューアル前後の2週間ほどは文字通り不眠不休の作業であった。過去記事の移植も単純なインポート作業では済まず、結局人力を動員してアナログな手法で対処していった。そんななかでもチームワークは抜群で、誰一人不愉快な思いをすることなく、互いの仕事ぶりを尊敬し合いながら作業が進んでいった。

リニューアルによって、Twitter や Facebook などの SNS への連携がしやすくなったこと、カテゴリ、時系列、エリア別、ライター別での記事検索や、一カ月の人気記事、ライター別新着記事など、記事への入口が多様になった。

2010年以前の記事の崩れは残るが、今後も地道に手修正を行い、過去記事も読まれるよう仕掛けていきたい。

(文：北原まどか)

■関連記事

本日 (4/4)、森ノオトがリニューアルオープンしました！

<http://morinooto.jp/news/npo-project/renewalope/>

【自主事業】

(5) あおばECOアカデミー【YES】

第1回：2013年6月3日（月）10:00～12:00

場所：アートフォーラムあざみ野

参加者数：29名（講師1名、スタッフ5名）

収入：27,300円 支出：21,087円



進行する地球温暖化問題に対して、今後は家庭部門対策・市民が主体となった環境行動が重要になる。グローバルな問題を足元からとらえ、市民一人ひとりの行動が地域社会を持続可能にしていくことを伝え啓発していくとともに、暮らしを取り巻く環境問題について「学び」、その後フューチャーセッションのスタイルで参加者自身が「考え」「共有し」、未来をつくる一員であることを自覚して「行動する」までの道筋を描くことを目標「あおばECOアカデミー」を企画した。

第1回目は、信時正人氏（横浜市温暖化対策統轄本部環境未来都市理事）による横浜市の環境未来都市の政策の講演と、参加者による「横浜の未来予想図をつくらう」ワークショップを開催した。

講師の話の密度が濃く、時間が押し気味でワークショップが拡散してしまったが、地域の老若男女が「環境未来都市・横浜」のイメージを共有し、地域内地域内での多世代交流が進み、またバックキャスト型で市民がビジョンを考え、共有するというプログラムを提供できたのがよかった。個々人の「横浜の未来予想図」を見たら、自由でおおらかなアイデアがたくさん見付き、このビジョンを深めていくための展開を検討して、次回以降生かしていった。

また、この企画でのつながりから、「あおば発エコ大作戦」「街の家族」の取材へと発展した。

（文：北原まどか・中島美穂）

■関連記事

「コミュニティづくりが温暖化解決の近道？ あおばECOアカデミー第1回レポ」
<http://morinooto.jp/news/npo-project/ecoaca01report/>

【自主事業】

(5) あおば ECO アカデミー【YES】

第2回：2013年7月1日（月）10:00～12:00

場所：アートフォーラムあざみ野

参加者数：22名（講師1名、スタッフ4名）

収入：47,301円 支出：47,301円



デンマークで自然エネルギー100%を実現したサムソ島の取り組みを追ったドキュメンタリー映画『パワー・トゥ・ザ・ピープル』を上映した。

エネルギーをきっかけに、人々が主役の生き生きとした地域コミュニティの再生に取り組んだ「ローカル・ヒーロー」の軌跡を見た後のワークショップでは、参加者同士が感想や意見を共有することで、地域内で自然エネルギーを増やしCO2排出量を削減するためにできる住民主体のコミュニティづくりを考えた。

ワークショップは、第1回で顔を合せた人同志も多く、全体的にとっても和やかなムードで、お互いに意見を交わしやすい土壌が生まれていた。環境課題の解決のためのコミュニティづくりのアイデアとして「エネルギー生協」や「自然エネルギー供給事業を始めたい」「コミュニティ内での保険」といったアイデアが出ていた。

参加者からは、「小さなグループでも強い意志を持ち続けることで少しずつでもよい方向に向かえる気がした」「自ら行動することの大切さを学んだ」「温暖化解決行動で人と人がつながれることがわかった」「エゴからエコへ進みたい」「まずは自分の意識を変えていきたい」「目的と手段を間違えないようにしたい」「人類全体の自殺を止めたい」といった感想が寄せられた。

（文：北原まどか・中島美穂）

■関連記事

自然エネルギー100%を実現したサムソ島に学ぶ「あおばエコアカデミー第2回目」レポ

<http://morinooto.jp/news/npo-project/eoacad02/>

【自主事業】

(5) あおば ECO アカデミー【YES】

第3回：2013年7月26日（月）10:00～12:00

場所：アートフォーラムあざみ野

参加者数：20名（講師1名、スタッフ4名）

収入：47,370円 支出：47,370円



地球温暖化が原因と考えられる猛暑や豪雨などの気象災害、都市の排熱やアスファルトの照り返しによるヒートアイランド現象……。そして、いつ起こるかわからない自然災害のリスク。地球環境対策と防災の課題解決に向けた最先端の取り組みが、横浜市で始まっていることをふまえ、横浜国立大学地域実践教育研究センター長 佐土原聡先生にお話をうかがった。

講義では大都市を支える生態系サービスと、ヒートアイランドなどで具体的に進む気候変動への適応策や、排熱データの可視化によって上昇気流をつかみ都市計画を見直す研究などを広く市民に周知できた。

後半は脱温暖化のための具体的な行動をクイックプロットタイピングするワークショップを展開し、4つのグループから4つのアイデアが生まれた。

佐土原先生のお話で、地球温暖化の現状や大都市で実施すべき緩和策・適応策や、大都市を支える生態系サービスへの総合的なお話を理解した方が多く、講座自体は成功だった。後半の井戸端会議では、具体的な温暖化行動のアイデアというよりは、コミュニティづくりといった総論的な話に拡散し、そこが反省点だった。

（文：北原まどか・中島美穂）

■関連記事

コミュニティづくりから始まる温暖化対策 「あおばECOアカデミー第3回目」レポ

<http://morinooto.jp/news/npo-project/ecoacd03repo/>

【自主事業】

(5) あおば ECO アカデミー【YES】

第4回：2013年9月13日（月）10:00～14:00

場所：ウィズの森

参加者数：16名（講師2名、スタッフ2名）

収入：45,770円 支出：45,770円



講師は、藤江恵一氏（株式会社ウィズハウスプランニング代表取締役社長）、玉置哲也氏（株式会社ウィズハウスプランニング企画室長）。「地球と地域と共生する住まい」をテーマに、断熱と温熱環境、自然素材の調湿性、光や風、熱など自然の恵みを取り入れたプラン、国産材を使うことで森を守りCO2を削減する、住まいの創エネ、スマートハウスなど、最先端の取り組みについてのお話をお聞きした。

参加者と講師の距離感が近く、環境配慮の住宅の意義が伝わったように感じた。「家をつくることで社会を変えられることがわかった」「家につながる森への理解が深まった」「住宅についての専門的な知識を分かりやすく教えてもらった」などの感想があった。

後半のワークショップで、「理想のエコハウスをつくろう」をテーマに、自由な発想で話し合った。参加者同士が近未来型の住宅（土、緑、農と最先端の創エネ設備が共存した住まい）について話し合い、各テーブルに建築士も混じったことから、具体的かつユニークなアイデアが生まれた。

講座後、地産地消の弁当を食べたあと、実際に自然素材・国産材・通気工法・家庭用燃料電池等のシステムを搭載した住まいを見学に行き、コストメリットや無垢材の吸放湿性能、断熱性などを実際肌身で感じ、多いに盛り上がった。

（文：北原まどか・中島美穂）

■関連記事

地球と地域に優しい理想の住まいを考える！ 「あおばECOアカデミー第4回目」レポ

<http://morinooto.jp/news/npo-project/ecoacd04repo/>

【自主事業】

(5) あおば ECO アカデミー【YES】

第5回：2013年10月4日（金）13:00～15:00

場所：山内地区センター

参加者数：18名（講師1名、スタッフ2名）

収入：42,065円 支出：42,065円



「持続可能な消費」のスペシャリストで、東京都市大学大学院環境情報学研究所教授の中原秀樹氏迎え「我が家の暮らし、地球何個分？」をテーマに、持続可能な消費のあり方や、それらを支える指標（エコラベルや、グリーン購入などの制度）、家庭でできる地球温暖化対策についてお話をいただいた。

中原先生のお話は、地球温暖化の現状や基礎知識について網羅されており、参加者一人ひとりの胸にグサッと届く内容で、参加者のアンケートからも温暖化への認識が深まった、急ぎの行動が必要であることを痛感したなどのコメントが寄せられた。

後半のワークショップでは、「森ノオトのオリジナルエコマークをつくろう」をテーマに話し合いをした。中原先生の講義と森ノオトのビジョンが結びつくような素晴らしいアイデアが生まれ、実際に11/23の森ノオトマルシェでこの井戸端会議で生まれたアイデアを採用するなど、実用化と市民啓発に結びついた。

講座への参加募集後、ギリギリまで参加者が少ない状態だったが、中原先生のご高名もあり、徐々に人数も増え、最終的にとてもよい雰囲気的人数におさまった。ただし、目標の30名の集客ができなかったことは残念。平日の午後だと来られる層に限られる。

（文：北原まどか・中島美穂）

■関連記事

11/18「あおばECOアカデミー第6回」のお知らせ／第5回目レポート・これからの環境ラベルは「ほどほど」に...

<http://morinooto.jp/news/npo-project/ecoacd05repo/>

【自主事業】

(5) あおば ECO アカデミー【YES】

第6回：2013年11月18日（月）10:00～14:00

場所：アートフォーラムあざみ野

参加者数：24名（講師1名、スタッフ3名）

収入：47,351円 支出：47,351円



東京急行電鉄（株）都市開発事業本部企画開発部統括部長の東浦亮典さんをゲストに、地球温暖化と超高齢化社会という二大課題に対して先進的に取り組む「環境モデル都市」のリーディングプロジェクトの一つ、たまプラーザの「次世代郊外まちづくりプロジェクト」について、お話をうかがった。

参加者からは、プロジェクトへの理解が深まり、関心の高まったことを感じられた。地球温暖化と超高齢化社会という大きな課題を、地域に落としこみ自らの問題として解決策を考えていきたいという意見が多かった。

講座後のワークショップでは、自分たちが街づくりの担い手であることを意識し、希望する郊外住宅地の未来像を描き、それに向けて自らができる具体的な行動を話し合った。地域コミュニティでの課題解決について、参加者同士の対話が盛り上がり、ECO アカデミー全回を通して、地域の異世代交流の場になったことを実感した。

ユニークな課題解決アイデアも出て、参加者自身に、課題解決のため地域コミュニティで自らができることは何かを模索したいという姿勢が感じられた。また、「エコリーダー養成講座」「地域のエコツアー」など、今後取り組みたい企画なども寄せられた。

（文：北原まどか・中島美穂）

■関連記事

あなたの住みたい街はどんな街？ あおば ECO アカデミー第6回レポート

<http://morinooto.jp/news/ecoacdreport06/>

【自主事業】

(6) よみがえりのレシピ上映会【YES、横浜市地産地消推進事業】

日時：20103年8月17日（土）

午前の部：10:00～12:00／午後の部：14:00～16:00／夕方の部：18:30～20:30

場所：アートフォーラムあざみ野 レクチャールーム

来場者数：有料入場者数：265名（前売：172名、当日：86名、子ども・障がい者：7名、スタッフ数：20名、ゲスト：4名、子ども：たくさん（50名くらい）

収入：539,590円（未収補助金75,000円） 支出：445,045円



山形県庄内地方で在来作物に特化した地産地消レストランのシェフ、そして在来作物の種を守り続けて来た農家にスポットライトを当てたドキュメンタリー映画『よみがえりのレシピ』の上映会を開催した。地域の豊かな風土と文化の礎となってきた在来種や地産地消の可能性を、青葉区の消費者、そして農家に伝え、生産者と消費者とともに温故知新の食と農の未来を展望することと、11月23日（土・祝）NPO法人森ノオト主催「あおばを食べる収穫祭」の啓発を企画の目的とした。

また、監督とゲストのトークセッションを同時開催。青葉区の若手料理家、若手流通業者、地産地消レストランオーナー（つむぎや マツラユタカ氏、青果ミコト屋 鈴木鉄平氏、ナチュラルレ・ボーノ 植木真氏、）をからめ、料理、食、農、流通の観点から都市農業の特性が生き地域活性につながる方向性を観客に示すことができた。前夜には監督との交流ディナーを企画し密な会話ができる

告知にはA4判2つ折4ページのチラシを作成。横浜市や青葉区の地産地消への取り組みや農家情報を掲載し、区内に1万部配布した。チラシのデザイン性を高めたことで多くの人に好評で、啓発につながり、地産地消への理解を得ることができた。

来場者からの反応も高かった。来年度もぜひ食に関する映画上映会と地産地消に関連する映画上映会を開催したい。

（文：北原まどか・中島美穂）

■関連記事

種から始まる新しい横浜の食！『よみがえりのレシピ』上映会レポ

<http://morinooto.jp/news/npo-project/yomirepireport/>

【自主事業】

(7) 山伏講話会

日時：20103年9月28日（土） 14:30～16:30

場所：グリーンピース（工作室グリーン）

参加者数：大人23名、子ども4名（小学生1名、乳幼児3名）

収入：25,200円 支出：13,170円



2013年7月に、キタハラが故郷・出羽三山で山伏修行をしたご縁から、羽黒山伏最高聖者・松聖の星野文紘さんをお招きして、「今に生きる山伏」をテーマに、自然と社会、人間を結びつける山伏の生きる知恵や、「山の思想」についてお話いただいた。

会場は、寺家ふるさと村にある無添加住宅ショールームのグリーンピース。自然を感じながらお話をうかがうにはぴったりの場所だった。

星野氏には、人間を結びつける山伏の生きる知恵や、「山の思想」についてお話いただき、身近な自然への意識を高めてもらうことができた。横浜にしながら、まだ見ぬ山形の山々と結びつけていただいたように感じた。

天气に恵まれ、参加者は先達とともに寺家の里山を歩き、勤行を体験することができた。法螺の音が響く寺家ふるさと村の風景が、いつもとは違って見るようだった。

（文：北原まどか・中島美穂）

■関連記事

寺家ふるさと村に山伏がやってきた！星野文紘先達の講話会in横浜あおば

<http://morinooto.jp/news/npo-project/jikeyamabushi/>

【自主事業】

(8) あおばを食べる収穫祭【横浜市地産地消推進事業】

日時：2010年11月23日（土） 10:00～15:00

場所：藤が丘駅前公園

来場者数：入場者数：約2500名

スタッフ数：25名

出店者数：20店

収入：248,863円 支出：250,403円



「地産地消で顔の見える街・青葉区」の地域ブランドづくりを目指し、「森ノオト」でネットワークしている有機栽培や自然栽培など環境配慮型の地元農家や小規模流通業者、地域の主婦など手づくり雑貨作家の小物販売などのマルシェを開催した。

青葉区内で開催されているマルシェ、地域活性化のイベントを網羅したチラシを作成し、藤が丘商店会の協力を経て、地元小中学校や商店、自治会など様々な場所に配布した。出店者は、ほぼ青葉区（一部都筑区、大和市）。来場者も約2500人以上を得て、大盛況だった。

ゴミの分別の徹底とリユース食器を導入した結果、大勢の来場者にも関わらず出たゴミは45ℓゴミ袋4つのみ、リユース食器回収率100%、マイ食器持参者も多く、エコという観点からも非常に完成度の高いイベントになった。

地元商店会を巻き込み、地域の人に地元の食や農を伝えることができ、またリユース食器の使用でゴミを減らすことができ、マルチベネフィットで大成功だったと言える。さっそく来年も開催が期待され、ほかにも各地でマルシェのコーディネート依頼が来るなど、反応は上々。ただし、マルシェ単体での会計は赤字でスタッフ人件費も満足に出ない状況で、事業として成り立つビジネススキームの構築が課題である。

（文：北原まどか・中島美穂）

■関連記事

森ノオト主催！「マルシェ de ウォーク あおばを食べる収穫祭」は大盛況！！

<http://morinooto.jp/news/morimareport/>

【自主事業】

(9) 次世代郊外まちづくり住民創発プロジェクト・シビックメディア

■講評会日時：2013年9月21日、従事者：3名、来場者：約200名

■第1回 鈴木菜央氏勉強会 日時：2013年12月6日、場所：オーガニックカフェ・ソワ [礎・波]、従事者：1名、ゲスト：1名、来場者：8名

■第2回 福井人勉強会 日時：2013年12月11日、場所：オーガニックカフェ・ソワ [礎・波]、従事者：1名、ゲスト：2名、来場者：7名

□収入：63,700円（未収補助金50,000円） 支出：73,500円



横浜市と東急電鉄が進める環境未来都市の取り組みの一つ、「次世代郊外まちづくり」がたまプラーザで進められている。住民参加型のワークショップのレベルが非常に高く、関心を持っていたところ、夏の節電啓発で業務委託を受けたことから一気に関係が深まり、森ノオトとして住民創発プロジェクトに応募する運びとなった。

1点は、森ノオトが持つ市民参加メディアの仕組みをたまプラーザのまちづくりに還元できないかということ。ただこの仕組みをソーシャルビジネス化するノウハウを持っていなかったので、10-12月までの「学びの支援部門」で有識者を招いての学びの機会を得たいということで、支援が決定した。ちなみに、この日のプレゼンがきっかけの一つとなり、住民創発プロジェクトの情報発信を業務委託することになった。

12/6に開催した greenz.jp 発行人の鈴木菜央氏を招いての勉強会は、森ノオトが今抱える課題の解決策を的確に表現していただき、今後の法人運営にたいへん参考になった。住民が住民取材する異色のコミュニティトラベルガイド『福井人』の浅田理恵氏、ライターの甲斐かおり氏の話から、森ノオトで今後チャレンジしたいクラウドファンディングの課題や、一般の住民が本を書いていったプロセスを学び、森ノオトの市民参加メディアとしての可能性を切り開いていただいたように思う。この「学びの支援」のプロセスを経て、第2回講評会へ進むことになった。

(文：北原まどか)

■関連記事

森ノオトが次世代郊外まちづくりの「シビックプライド・プロジェクト」に参加します！

<http://morinooto.jp/news/ecoloco-report/civicpride/>

「greenz.jp」に学んだ、これからのメディアとコミュニティ

<http://morinooto.jp/news/greenzjp/>

市民参加型メディアのつくり方をコミュニティトラベルガイド『福井人』に学ぶ！

<http://morinooto.jp/news/fukuijin/>

【自主事業】

(10) 次世代郊外まちづくり住民創発プロジェクト・たまプラーザエレキラボ

■講評会日時：2013年9月21日、従事者：3名、来場者：約200名

■おがわ町自然エネルギーファーム見学ツアー 日時：2013年12月3日、

場所：埼玉県ときがわ町、小川町、従事者：1名、参加者：6名

■独立型ソーラーシステムテキスト&オリジナルステッカー制作 日時：2013年12月、

従事者：3名、受益者：青葉区内多数

収入：37,702円（未収補助金全額） 支出：37,702円



森ノオトメンバーが3.11を機に立ち上げた市民団体「あざみ野ぶんぶんプロジェクト」の活動を発展させていくため、2013年11月をもって森ノオトに合流することにした。たまプラーザのまちづくりに主婦目線のエネルギー社会を持ち込むことができれば、コミュニティづくりの一助になるのではないかとこの観点から、住民創発プロジェクトにエントリーした。

学びの活動支援部門の期間（10-12月）中、自作した独立型ソーラーシステムをたまプラーザナイトウォークに貸し出すなどして、たまプラーザ住民とのコミュニケーションをはかっていった。これにより、地域イベントの一部を自然エネルギーでまかなう、持ち寄り電力の強みを確信した。

また、かねてより交流のあった有機農業の里・埼玉県小川町で2013年9月に設立したNPO法人おがわ町自然エネルギーファームの見学ツアーを行い、ぶんぶんメンバーで参加してきた。都市部と農村部という決定的な違いがありながらも、アースデイ等で活躍するデザイナー、市民向けソーラーワークショップや太陽光発電での被災地支援などで著名な方との出会いがあり、主婦として節電アドバイザー起業をした方のコーディネートのもと、収穫の多いツアーだった。

メンバーの青木真紀氏デザインによる、森ノオトオリジナルの独立型ソーラーシステムのテキスト「ぷちエネ生活のすすめ」と、マイ発電所をつくった地域の方に配る、森ノオトのオリジナルキャラクター「もりこ」ステッカー、支援金を活用してこの2点を制作した。

同じくたまプラーザで市民共同発電事業を目指す「スマートキャンパスプロジェクト」と合流して、2014年1月の第2回講評会では「たまプラーザ電力プロジェクト」として再びエントリーすることになった。

（文：北原まどか）

■関連記事

おとなの遠足「おがわ町自然エネルギーファーム」へ行ってきました！

<http://morinoto.jp/news/ogawamachitravel/>

【委託事業】

(1) 県民記者ボランティア養成講座

日時：5月21日(火)「プロから学ぶ取材の心得」、5月28日(火)「効果的なインタビュー術」、6月4日(火)「デジタルカメラの撮影術」、6月11日(火)「印象に残る記事の執筆方法」、7月16日(火)「全体振り返り」

場所：神奈川県民ボランティアセンター

従事者数：2名（他、講座主催者2名） 参加者数：14名



3/21に青葉区内で開催された「都市郊外の農的空間を考える」フューチャーセッションで出会った富士通研究所の原田博一氏・八木龍平氏のプロジェクト「県民記者ボランティア養成講座」。メディアを市民参加の糸口と考える手法は森ノオトと共通しており、富士通研究所ではそれを全国展開している。講座の卒業生は同社が運営するウェブメディア「まちばた.net」に投稿することができる。森ノオトでリポーター養成講座を行っていることから、神奈川県での実施に際して森ノオトが事務局として受付業務などの委託を受ける形で協働がスタートした。

第3回目の「デジタルカメラの撮影術」では、森ノオトの高山えりか氏が講師を務める予定で準備を進めていた。身内の不幸で急きょ北原がピンチヒッターとなったが、撮影術のみならず、インタビューをしながら撮影する際のテクニックや、シチュエーション別押さえておきたい写真、ウェブメディアならではの留意点などを加えることができ、参加者からもおおむね好評であった。

講座受講者のなかから、森ノオト関連の取材をしてくださる方が2名出て、「まちばた.net」で森ノオトと、コマデリの小池一美氏が紹介された。

また、原田氏、八木氏には、あおば ECO アカデミーのワークショップのアドバイスを得るなど、講座終了後も友好関係が続いている。

(文：北原まどか)

■関連記事

申し込みスタート！県民記者ボランティア養成講座@横浜

<http://morinooto.jp/news/messageboard/kisha/>

【委託事業】

(2) 次世代郊外まちづくり家庭の節電プロジェクト啓発事業（ま）

日時：2013年7月27日・28日

場所：たまプラーザ中央商店街

従事者数：3名 参加者数：不特定多数



2012年より横浜市と東急電鉄が協働で行っているたまプラーザでの「次世代郊外まちづくり」。民間の立場でこの事業をリードする東急電鉄都市開発事業本部企画開発部統括部長の東浦亮典氏の目に留まったのが、森ノオトで好評連載中の「琥珀の子 ～電気のお話」だ。電気に魅せられ、電気を解明し商用発展してきた物語を、科学者など歴史上の人物に焦点を当てながら文学的に解きほぐす梅原昭子氏の連載は、原発事故でダークなイメージがまとわりついていた電気というエネルギーにさわやかな風を運んでいる。

次世代郊外まちづくりで進めている「家庭の節電プロジェクト」の啓発の一環として、この連載のコンテンツを活用できないかという東浦氏のアイデアから生まれたこの企画。第一弾として、たまプラーザの夏祭りでの啓発のためのブースを設ける事から、森ノオトのメンバー内で議論し、観光地にある顔抜きパネルで客足を止め、パンフレットを配ることを提案した。また、小中学生向けに「電気のおはなし」のショートムービーを作成し、節電やエネルギーに関心を持ってもらうコンテンツを用意した。ショートムービーは吉村友希氏と梅原氏が担当した。

7/27、7/28の両日とも、北原と梅原、北原健がスタッフとしてブースに立ち、偉人について説明した。このコンテンツは、その他の節電関連のイベントでも再活用されているという。

(文：北原まどか)

■関連記事

電気の偉人と一緒に節電をPR！ たまプラーザ夏祭りレポ
<http://morinooto.jp/news/ecoloco-report/tamaplafestarepo/>

【委託事業】

(3) 3R 夢なクッキング講座

第1回：2013年10月30日（水） 場所：若草台地区センター

第2回：2013年11月6日（水） 場所：大場みすずが丘地区センター

第3回：2013年11月13日（水） 場所：藤が丘地区センター

第4回：2013年11月20日（水） 場所：奈良地区センター

従事者数：各回3名（講師1名、アシスタント2名）

参加者：各回約10名



青葉区役所地域振興課の依頼を受けて、料理講座を開催した。森ノオトの人気コンテンツ「我が家のもったいないレシピリレー」がヒントとなった講座のタイトルは、「3R 夢（スリム）なクッキング もったいない、使いきりレシピ」。

参加者に、地域のゴミ問題をまずは家庭の台所で出る生ごみから考えてもらうことと、青葉区内でとれた旬の味（今回は JA 田奈の大根と人参）を無駄なく味わうことで、地産地消への関心を高めることがねらい。

旬の大根をメインに、皮も葉も残さず使い切ろうと料理の得意な森ノオトメンバーが考えたレシピは、『大根葉と厚揚げの餃子』『大根と人参の皮ごときんぴら』。講師は各回1名、森ノオトのメンバー（秋山貴子、大西香織、中島美穂）が務めた。

講座の参加者の多くが地域の年配の主婦のみなさんで、いい雰囲気講座が進められ、「餃子をつくるけど、この取り合わせは考えたことなかった」など嬉しい感想が寄せられ、参加者からもたくさんのアイデアをいただいた。今まで森ノオトを知らなかった層に知ってもらう機会にもなった。

レシピと同時に、講座の最後に出たゴミの量がとても少なかったことや、青葉区役所地域振興課資源化推進担当の岩本章係長からの横浜市のゴミの話もあり、「ゴミを減らす」という講座のテーマへの理解が深まり、それぞれの家庭へつながる手応えを感じた。

また、横浜市において、区の主催事業として料理講座を開催することは珍しく、青葉区では初の試みだった。今後も良い関係をつなげていきたい。

（文：中島美穂）

■ 関連記事

食べないなんてもったいない！「3R 夢（スリム）なクッキング」講座レポート

<http://morinooto.jp/news/3rmucookingrepo/>

【委託事業】

(4) 次世代郊外まちづくり住民創発プロジェクトレポート委託

日時：2013年11月～2014年3月（予定）

スタッフ人数：6名



次世代郊外まちづくりのリーディングプロジェクトの一つである「住民創発プロジェクト」で、森ノオトはたまプラーザの住民参加型シビックメディアを提案した。同時に事務局サイドで進んでいた住民創発プロジェクトのウェブサイト森ノオトのノウハウで運営できないかとの相談があり、活動が本格的に動き始める2013年11月より、横浜市と東急電鉄から委託を受けて取材、レポートを行うことになった。

参加メンバーは住民創発プロジェクトに関わっている北原、梅原、青木に加え、森ノオトの中で取材力・記事力が傑出している中島美穂、たまプラーザのラジオ局・FMサルースのレポーターとして実績がありたまプラーザの街取材経験も豊富な高橋陽子、森ノオトのリポーターの期待の新星・松岡美和の6名で取材を行っている。

たまプラーザ住民のハブ的存在の大野承氏や、青葉区民会議で活躍する千葉恭弘氏など、住民創発プロジェクトでお会いする方々があおばECOアカデミーの常連で「森のなかま会員」でもあることから、取材の際もたまプラーザ住民の間に溶け込みやすく、メンバーも積極的に交流会に参加するなど、森ノオトがたまプラーザというエリアに馴染むのにとってもよいきっかけになっている。

記事のクオリティについても、今後、住民の方々が参加できるようなモデルたるよう、リポーター目線と委託業務としての客観性の両立を目指している。

(文：北原まどか)

■関連記事

住民創発プロジェクト シビックプライド・プロジェクト

<http://jisedaikogai.jp/sohatsu/>